



## あす(11/19金)は「部分日食(皆既日食なみの)」

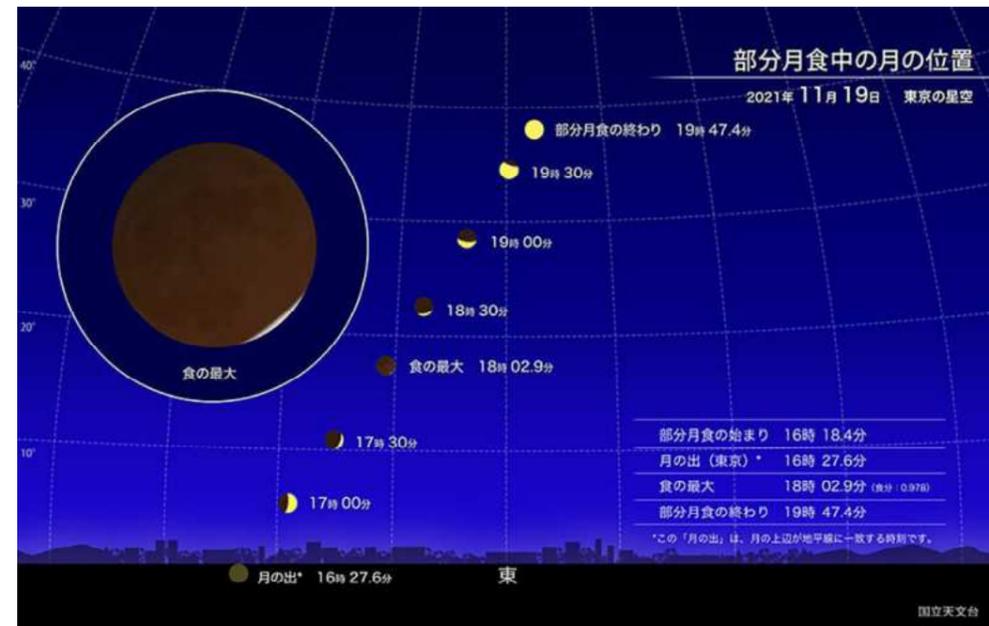
*It is a partial lunar eclipse of "an almost total lunar eclipse" on November 19.*

5月26日には満月で、皆既月食でした。覚えていますか? 「フラワームーン」で「スーパームーン」でもって、皆既月食の満月は「赤銅色(しゃくどうしょく)」と表現される不思議な赤い色になるので「ブラッドムーン」でした。3つの「ムーン」が重なりました

11月19日(金)は、部分月食です。羅臼高校での食の最大は、18時2分36秒、高度22.6度、方位85.5度(東の方向)です。食分が0.978(97.8%)なので、「ほぼ皆既月食」です。こんなにも欠けた部分月食は140年ぶり(前回は1881(明治14)年12月6日)です。東北北部や北海道は、月が出てから月が欠け始めます。東北北部と北海道以外は、月が欠けた状態で空に昇ってきます。これを、「月出帯食(げっしゅつたいしょく)」と言いましたね。「ほぼ」も含めて、年に2回の「皆既月食」が見られるなんて、ラッキーな年です。

5月の皆既月食では、「赤銅色」の月が観測できました。今回も、食分の大きさから「赤銅色」の月が見られるのでしょうか。月が赤銅色に見える仕組みから、想像してみてください。

ちなみに、11月の満月を「ビーバームーン」と言うそうです。そして、今年「部分月食」ですが、来年(2022年11月8日)は「皆既月食」だそうです(5月にも皆既月食があるのですが日本では見るできません)。今年、来年と11月の満月は特別です。



←東京の星空のモデル図  
羅臼町では、41分30秒早く出現します。  
具体的な時間は下のデータを参照して下さい。

### 羅臼町の皆既月食データ (国立天文台 Web を参考)

- 月の出(町役場) 15時44分36秒
- 部分食の始まり 16時18分24秒
- 食の最大(97.8%) 18時 2分36秒
- 部分食の終わり 19時47分24秒

食が最大になる18時頃、月の左上に「すばる」、左下に「アルデバラン」が位値します。「すばる」は和名であり、「プレアデス星団」のことです。「アルデバラン」とともに、おうし座の星たちです。

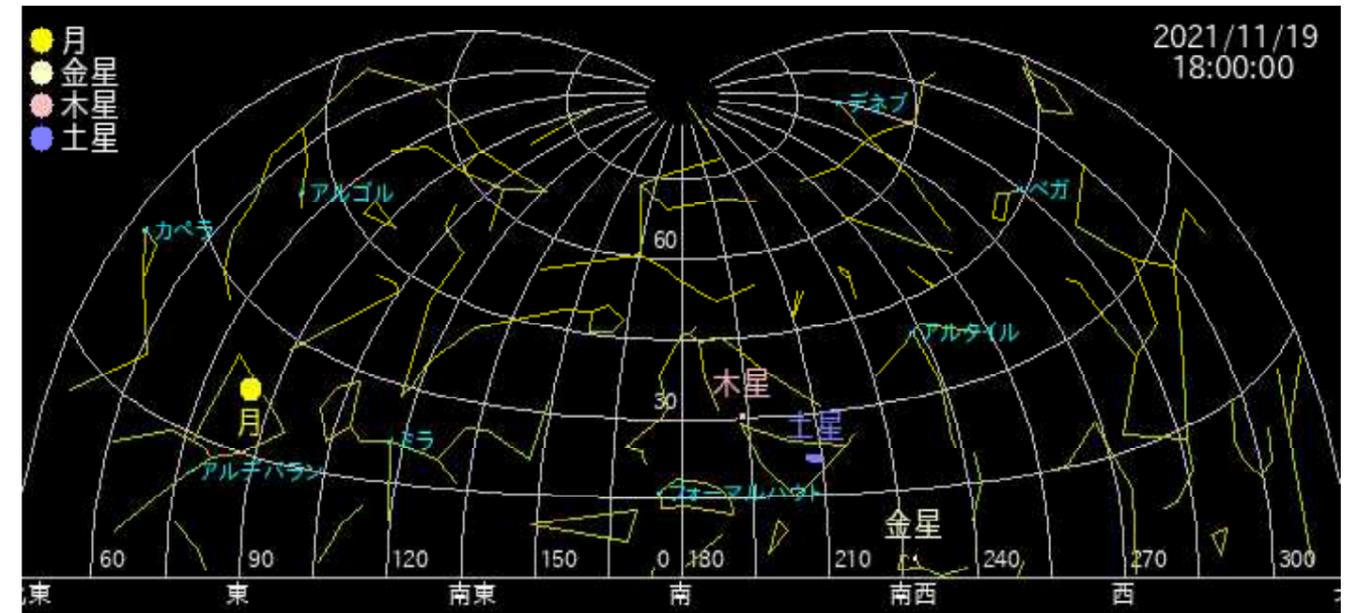
「すばる」は若い年齢の青白い(高温の)星の集団です。清少納言の著した「枕草子」の一節(第236段)にもあります。「星はすばる。ひこぼし。ゆうづつ。よばい星、すこしをかし。尾だになからましかば、まいて。(星はすばる、ひこぼし、宵の明星が良い。流れ星も少し趣がある。尾を引かなければもっと良いのだけれど)」

「アルデバラン」。最近では、AIさんが歌っている朝ドラの曲名と同じですよ。アラビア語で「後に続くもの」という意味で、同じおうし座の「すばる」よりも少し遅れ日周運動をすることに由来しているそうです。和名で「あと星」と言うそうです。赤橙色の星です。月食の星が「赤銅色」であれば、赤みを帯びた天体の共演ですね。

目梨郡羅臼町(北海道)

緯度:44.0219° 経度:145.1894° 標高:0.0 m 標準時:UT+9h

2020年11月19日(金) 18時00分00秒



### 校長センセイからの挑戦状

- 食が最大するとき、月の高度が羅臼では22.6°、札幌では約19.7°、京都では14.0°です。どうやら緯度と関係がありそうです、なぜこのような傾向になるのか説明できますか?
- 食が最大するとき、南西の地平線付近に「宵の明星(よいのみようじょう)」という明るい惑星が観測できます。この惑星はなんと呼ばれていますか?
- 「すばる」は若い年齢の青白い高温の星の集団でした。アルデバランは赤橙色です。「すばる」を参考に、アルデバランはどのような特徴を持った星と推測できますか?

### 《校長が死ぬまでに見たい自然現象について》

○ベテルギウス(オリオン座を構成する独特な赤橙色を放つ恒星)の超新星爆発

恒星進化の最終段階にある赤色超巨星で、「いつ超新星爆発を起こしてもおかしくない」と言われており、2020年初めに前例のないほど大幅に減光し一時的に2等星になった際には、爆発のときが迫っているのではないかと憶測もあった。ベテルギウスが超新星爆発した場合は、月の半分の大きさで太陽の光と同程度に輝き、昼間でもその輝きは3~4ヶ月観察できると言われている。これは絶対見たい天体ショーでしょう!

ですが、、東京大カブリ数物連携宇宙研究機構(IPMU)などのチームが「まだ爆発の兆候はない。早くても10万年後」とする論文を発表しました。とほほ、、私はもう死んでいるじゃん。